

# ファシリテーションの視点を援用した 国語科「書くこと」の授業開発 ：クリエイティブ・ライティングをてがかりに

学籍番号 229304  
氏名 刑部 涼  
主指導教員 土山 和久  
副指導教員 坂本 俊哉

## 1. 問題設定

学校教育におけるファシリテーションは、2000年から段階的に導入された「総合的な学習の時間」を契機として、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められる現代においても、学習指導要領、または文部科学省中央教育審議会によって学校教育全体の今日的課題となっている。その一方、稿者も含め教授主義の教育を受けた教師にとって、この役割認識の変革は簡単ではないように思われる。そこで、本稿では役割認識の変革を自身の教職課題と捉え、構成主義的な立場でファシリテーションの視点を援用した授業開発を目指す。そのために、参加型学習の手法であるワークショップを学習の基本的枠組みとして、また資質・能力の育成が求められる国語科「書くこと」について先進的なドイツのクリエイティブ・ライティングを手がかりに授業開発を実践的に考究している。

## 2. てがかりとしたテキスト『Kreatives Schreiben 111 Übungen』

本テキストは、日本でいう小学校5年生から高校3年生を対象に、創造的に書くことの資質・能力の育成をねらうものである。4つの文章ジャンルを中心に構成された計111の練習課題が用意されている。その中で、「第4部 ジャーナリスティックに書く」に掲載された20のプログラムを翻訳し、分析を行った。本テキストの練習課題は、従来の日本の作文教育で典型的にみられる認知的な悟性・理性を育成するものではないように思われる。学習者は各活動に仕組まれた技巧の素材を用いて、自分自身のアイデアを発展させたり、型をあえて破ったり、独自の表現力を存分に発揮しながらテキストを生み出していくことを通じて創造的に書くことの資質・能力を身につけるように企図されているのである。そこで、各セッションの練習課題に仕組まれた資質・能力を規定するため、「カスパー・H.シュピナー(2006)のCWにおける書くことの5つのアプローチ」と稿者が提案する「ジャーナリズムの機能的観点を踏まえた書くことの3つのアプローチ」の二つの視点を中心に各セッションの類型を試みた。このように本章では、本テキストの構成や基本的性格、クリエイティブ・ライティングの教育的価値、活動概要及び類型について述べている。

### 3.ファシリテーションの視点を援用した国語科

#### 「書くこと」の授業開発の試み

本章では、大学生、大学院生を対象に先述したテキスト『Kreatives Schreiben 111 Übungen』の「第4部 ジャーナリスティックに書く」に掲載された20の活動から、「ことわざから新聞記事へ」、「編集者に手紙を」、「スポーツレポートの作成」、「時代精神をとらえる」、「レビューを書く」の計5つを取り上げ、ワークショップ型授業を展開した。実践を通じて、ジャーナリズムを用いたクリエイティブ・ライティングは単に記事を作成する能力や、ジャーナリズムの集中的な理解を刺激するだけでなく、世界の知覚の仕方や理解を助ける1つの方法を示唆している。このことは例えば、異なる時代に書かれた2つの文章を見比べ、時代精神を捉えることやある出来事を複数の人物の視点で物語を書くことを通して、認知的差異に対する意識が鋭敏化される。本テキストに収録されたCWのプログラム自体が書き手を揺さぶり刺激となったり、自らの主観性を表出、時に想像力を働かせて、ジャーナリスティックに書くことで、テキストに対する感受性を開き、文体上の特殊性に対しても対応できるようになり、現代における書くことの資質・能力の育成に寄与すると言えるのではないだろうか。

#### 4.研究の成果と今後の課題

以上の研究を踏まえ、「第4部ジャーナリスティックに書くこと」の活動が、言語生活者として公正で中立に事実に対して迫るなど、ジャーナリズムの精神性、教示、スキル、時宜にかなう文章を書くといった学習者の資質・能力の育成に寄与したように思われる。また、参加者作品から、クリエイティブ・ライティングについて先行研究の理論的基礎付けで示唆されていた新たな経験の仕方・世界認識の仕方が開かれることが看取された。これは、クリエイティブ・ライティングの手法が持つ性質に加え、ファシリテーターが介在する学びの場としてワークショップ型の授業デザインが少なからず機能したように思われる。今回は授業者（稿者）の拙い実践であるが、よりファシリテーションが機能した雰囲気、空間であれば一層の教育効果が期待される。今後の教職課題として、本実践を通じてファシリテーターに求められる、ある意味即興的な知識構築のガイドの困難さが挙げられる。つまり、学習に必要な自由と構造を踏まえた即興的な学習をどう実現させるか、より教職力量を向上させるため、今後は一人の実践者として「書くこと」の教育について、検討していきたい。